

しつもん塾 & オランダ教育通信

※このお知らせはしつもん塾の様子と、私(土岐)のライフワークであるオランダの教育について勝手にお伝えするお知らせです。

VOL.1 2014年 7月

発行者 土岐 幸司

みなさまこんにちは。しつもん塾の土岐です。**いつもお世話になってます。**

しつもん塾の様子や、そしておまけで私の個人的な趣味であるオランダ教育を勝手にお伝えするという、お知らせです。

まずこの一学期のしつもん塾の流れについてお知らせ致します。

4月にしつもん塾は開校しました。最初の塾生は大井中3年の一君だけでした。とても寂しいので、外の飛び出し飛び太君を部屋に入れて寂しさを紛らわしていました。



逆に、より寂しくなりました

彼は私が2年前までやっていたスタディルーム個別指導教室の生徒でした。震災の日も、停電の中で唯一授業をした生徒です。中1、中2と別の個別指導の塾に通っていましたが辞めてすぐにしつもん塾の門を叩いてくれました。

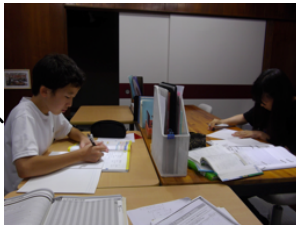
他にもスタディルーム時代の縁で、当時の生徒の弟である大井中1年H君、そして当時は中学2年生だった和光国際高校2年のKさんなども入塾してくれました。

5月の初め、土曜日の午後には勝瀬中2年のA君のお父さんとお母さんが急に来訪してくれました。確か、入り口横の「WELCOME」学び舎しつもん塾」という実態がつかみにくい看板しか無い中、来て頂いたのは奇跡です。そしてA君が入塾してくれました。私の元々のつながり以外で初めて入塾してくれた生徒です。

そして同じく5月下旬に、一君がS君という友人を紹介してくれました。声が低く、髪の毛がもじゃもじゃなので僕もA君も初め面喰らいましたが、体験授業の帰り際、「たぶん入塾すると思います!」とさわやかに言い残していった姿が印象的でした。

7月に入り6月に体験をした生徒が入ったので今現在(7月15日)で生徒は7名です。

しつもん塾は、ご存知のようにパーテーションで区切られた個別指導ではなく、向かい合って座る会社のオフィスの様な机の配置にしています。



いい面は、お互い刺激を受けて集中しますが、悪い面は悪い影響を受けるといふことです。もちろん、そこは私がつまぐ良い影響のみを活かしたいと思うのですが、生徒によっては調子が悪かったり、何か気になる事があり、落ち着きが無かったりすることもあります。

それでも、そこから得るものも大きく、**協同、協調を学ぶ良い機会**だと思っています。

そして一番伝えたい事は、開校してはじめての生徒たちは、今後を占う上でもとても大切ですが、**いい生徒が来てくれてとても感謝している**という事です!

■オランダの教育

オランダでは、1960年代まで日本の学校と同じような授業が行われていたのですが、小学校で留年をする落ちこぼれが多くなり、その後、教育の改革が行われました。

オランダの教育制度の特徴の一つに、入学者300名集めると誰でも学校を作れ、公立学校と同じ補助が得れるというものがあります。

そのため、学校間でゆるやかな淘汰があり、その流れの中で先進的な取組みをしている学校が多くあります。

例えば、イスラム教に基づいた学校など、多様な学校があるのですが、その中で私が最も優れていると感じているのが「**イエナプラン**」という教育方法を取り入れている学校です。

その、イエナプランの教育研修に今年の3月行ってきました。



家具のデザインから違います。



私が好きな特徴の一つは、「人はひとりひとり違う」ということを前提にしているという事です。

しりすばみですが、また次回、お伝えさせていただきます。そして、秋ごろに、**オランダの教育についてお話しするワークショップ**のようなものをしつもん塾で開きたいと思っています。お時間ありましたら、ご参加ください!

しつもん塾に通われていて、気付いた点、こうして欲しい、など些細な事でも教えて頂けると有り難いです。

お声を聞かせて頂けると助かります→studyroomtk@gmail.com